

学年閉鎖中課題

以下の課題を閉鎖中に行い、閉鎖明け最初の授業で全て提出する。

自身の体調を鑑み、無理のないよう行うこと。その場合は終わっていないなくてもかまわない。ただし、体調不良等で課題が終わらなかった場合は、最初の授業の前にあらかじめ申し出ること。

一 パーフェクト常用漢字 第20回 ～ 第22回

付属の漢字練習プリントをプリントアウトし、それぞれ書き取り練習を行う。

※ プリントアウトできなくても、漢字練習プリントと同じ回数、書き取り練習を行えていれば自身のノートやルーズリーフ等でも同じ提出物として扱う。

提出時、**必ず記名すること**

一日一枚、最低三日を想定しての課題である。

閉鎖の期間によってはさらに追加される可能性もある。

二 教科書 P 300 ～ P 303 『伊勢物語 「筒井筒」』

本文の現代語訳を、自身のノートやルーズリーフ等に自身で考え記入する。

その際、本文や自身の訳に番号を付けるなど、本文のどの部分の訳かわかるように書くこと。

※ 本文データを掲載するので、教科書を持ち帰っていない場合は活用すること。

辞書がない場合、ネットで言葉や文法を調べるときはもちろんかまわないが、訳そのものをネットから引用する行為は禁止する。

常用漢字 第20回

- 1 資料をジユクドクする。(熟読)
- 2 新幹線のザセキを探す。(座席)
- 3 ケンチョウ所在地。(県庁)
- 4 フクツウのため休む。(腹痛)
- 5 判断のシヤクドにする。(尺度)
- 6 コウソウビルの最上階。(高層)
- 7 工芸品をテンジする。(展示)
- 8 ムトドけで外出する。(無届け)
- 9 故人のイシを継ぐ。(遺志)
- 10 台風のためエンキする。(延期)
- 11 ベツサツ付録を付ける。(別冊)
- 12 知識がヒンコンだ。(貧困)
- 13 ナイカク総理大臣。(内閣)
- 14 六時にヘイテンする。(閉店)
- 15 実力者がヘイリツする。(並立)
- 16 保守的なセイトウだ。(政党)
- 17 冷静にタイショする。(対処)
- 18 キンム態度が良い。(勤務)
- 19 カンマツ資料を読む。(巻末)

- 20 マキモノを広げる。(巻物)
- 21 身にキケンが迫る。(危険)
- 22 海ガメのサンラン。(産卵)
- 23 冬服をシユウノウする。(収納)
- 24 コウゴウ陛下。(皇后)
- 25 制度のカイゼンを図る。(改善)
- 26 友人のアンピを気遣う。(安否)
- 27 スイチョク二等分線。(垂直)

常用漢字 第21回

- 1 楽器をエンソウする。(演奏)
- 2 コウフンして叫ぶ。(興奮)
- 3 前向きなシセイ。(姿勢)
- 4 親フコウな息子。(不幸)
- 5 危急ソンボウの事態。(存亡)
- 6 セイゾンを確認する。(生存)
- 7 光がハンシャする。(反射)
- 8 ショウライの夢を語る。(将来)
- 9 ゴールスンゼンで抜く。(寸前)
- 10 学業にセンネンする。(専念)

1 1 両親をソソケイする。(尊敬)

1 2 シュウシヨク活動。(就職)

1 3 リコ的な考え方を直す。(利己)

1 4 博覧会がカイマクする。(開幕)

1 5 ジャツカン残りがある。(若干)

1 6 ヨウシヨウの頃。(幼少)

1 7 日本国ケンポウ第九条。(憲法)

1 8 チュウセイを誓う。(忠誠)

1 9 ボウネン会を開く。(忘年)

2 0 ジガに目覚める。(自我)

2 1 ボシユンの風景。(暮春)

2 2 詩のロウドクをする。(朗読)

2 3 病気のカンセンを防ぐ。(感染)

2 4 学習イヨクに燃える。(意欲)

2 5 家族でオンセンに行く。(温泉)

2 6 ハイイロの厚い雲。(灰色)

2 7 ダンペンの記憶。(断片)

常用漢字 第22回

1 人事イドウの季節。(異動)

- 2 ギモンに答える。(疑問)
- 3 コウシツを訪問する。(皇室)
- 4 テンノウが即位する。(天皇)
- 5 セイダイに祝う。(盛大)
- 6 国連にカメイする。(加盟)
- 7 徹夜でカンビョウする。(看病)
- 8 ポケツを掘る。(墓穴)
- 9 知識をタイケイづける。(体系)
- 10 ヨクジツまで考える。(翌日)
- 11 シンセイな雰囲気。(神聖)
- 12 ハイゴで声がする。(背後)
- 13 シキン距離まで近づく。(至近)
- 14 ヨウサンの盛んな地域。(養蚕)
- 15 カンシュウの声援。(観衆)
- 16 サイバンで争う。(裁判)
- 17 フクソウを改める。(服装)
- 18 考えがノウリに浮かぶ。(脳裏)
- 19 シセンを落とす。(視線)
- 20 書類をカイランする。(回覧)
- 21 財界にクンリンする。(君臨)

- 2 2 ケイビは万全だ。(警備)
- 2 3 キチヨウな意見だ。(貴重)
- 2 4 ウンチンを払う。(運賃)
- 2 5 ナンダイに悩まされる。(難題)
- 2 6 産業カクメイ。(革命)
- 2 7 コツニクの争い。(骨肉)

昔、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとに出でて遊びけるを、大人になりければ、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男はこの女をこそ得めと思ふ。女はこの男をと思ひつつ、親のあはすれども、聞かでなむありける。さて、この隣の男のもとより、かくなむ。

筒井筒井筒にかけしまろがたけ過ぎにけらしな妹見ざるまに

女、返し、

くらべこし振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずして誰か上ぐべき
など言ひ言ひて、つひに本意のごとくあひにけり。

さて、年ごろ経るほどに、女、親なく、たよりなくなるままに、もろともにいふかひなくてあらむやはとて、河内国高安の郡に、行き通ふ所出で来にけり。さりけれど、このもとの女、悪しと思へる気色もなく、出だしやりければ、男、異心ありてかかるにやあらむと思ひ疑ひて、前栽の中に隠れゐて、河内へいぬる顔にて見れば、この女、いとよう化粧じて、うちながめて、

風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ

と詠みけるを聞きて、限りなくかなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。

まれまれ、かの高安に来て見れば、はじめこそ心にくくもつくりけれ、今はうちとけて、手づから飯匙とりて、けこの器物に盛りけるを見て、心憂がりて、行かずなりにけり。さりければ、かの女、大和の方を見やりて、

君があたり見つつを居らむ生駒山雲な隠しそ雨は降るとも

と言ひて見出だすに、からうじて、大和人、「来む。」と言へり。喜びて待つに、たびたび過ぎぬれば、

君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつつぞ経る
と言ひけれど、男、住まずなりにけり。